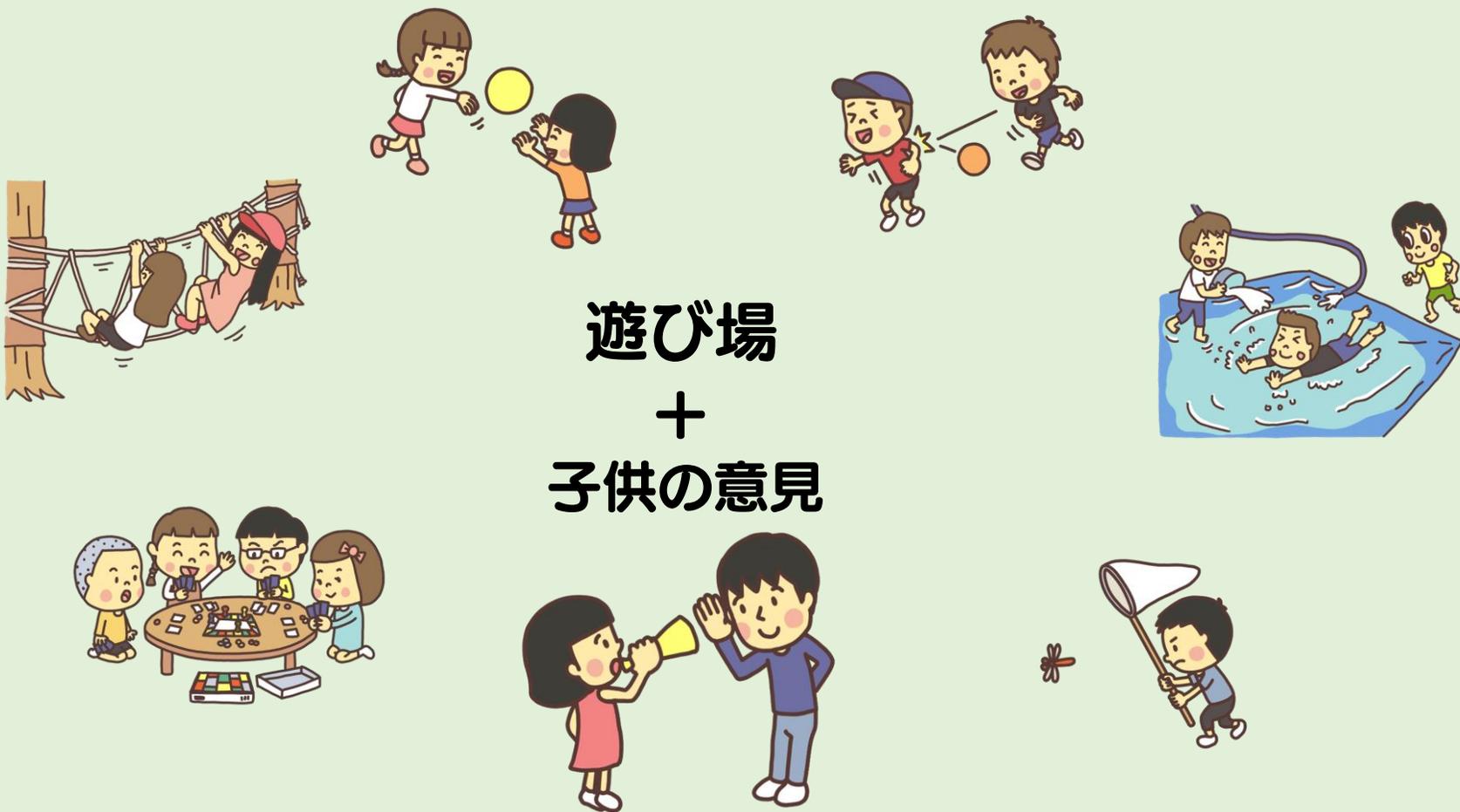


子供の意見を反映した遊び場づくり

<子供の遊び場等整備事業補助金 採択事業>



東京都子供政策連携室（令和6年2月作成）

令和5年度 子供の遊び場等整備事業補助金 概要

目的

子供が伸び伸びと遊び、他者との交流を通じて多様な体験ができる環境づくりを推進していく上で、区市町村が、子供の意見を踏まえて、子供の遊び場等を基盤整備する事業を、都が支援することにより、子供の「遊び場」を創出し、「遊び」を通じた子供の健やかな成長を育むことを目的

補助概要

- 予算額の範囲内で、毎年度、対象事業を評価し、採択する事業を決定する
(参考) 令和5年度予算額：3億円
- 補助期間は最大3か年を限度に単年度単位（年度ごとに都の審査が必要）
- 補助上限額は1億円、補助率は10/10

対象事業

プレーパークや地域資源を活用した遊び場など、子供の「遊び場」の創出に資する次の事業を対象

【子供の遊び場等基盤整備事業】

- 「遊び場」として、子供であれば誰でも無料で遊ぶことができる屋外又は屋内施設を主として整備
- 「学び」「居場所」「相談場所」又は「インクルーシブ」のうち、1つ以上の機能を持った施設を併せて整備することもできる
- 事業を実施するに当たっては、子供に意見を聴いて「遊び場等」の整備内容に意見を反映させること

優先的に採択する事業

こども未来アクション（令和5年1月30日策定）で掲げるリーディングプロジェクト：「子供の笑顔につながる『遊び』の推進」の趣旨に沿う次の事業を優先し採択する

- 幅広く子供に意見を聴いて、「遊び場等」の整備内容等に、その意見を取り入れ、子供のニーズを反映した事業
- 都として、区市町村の積極的な取組を期待する事業（プレーパークやボール遊び場の整備事業）
- 「学び」「居場所」「相談場所」「インクルーシブ」のうち、1つ以上の機能を持った施設を併せて整備する事業
- 補助金を契機として、子供が多様な遊びを経験できる環境が新たに整備される事業

子供の遊び場等整備事業補助金 R5年度 採択事業

【凡例】

プレーパーク

ボール遊び場

→都として、区市町村の積極的な取組を期待する事業

学び

居場所

相談場所

インクルーシブ

→多様な機能を有する遊び場を整備する事業

プレーパーク

学び

居場所

相談場所

インクルーシブ



事業のポイント

- 子どもが自然の中で自由に主体的且つ創造的な外遊びができる場として、砧地域にプレーパークやリーダーハウスを整備し、地域で子どもを見守り支える環境をつくる
- 地域の外遊び拠点として、外遊びの啓発・推進を行う
- 子どもの遊び場を中心とした多世代交流が生まれ、地域のコミュニティづくりにつなげていく

子供の意見聴取・整備内容等への反映

- 公園、児童館、地域交流イベント等の利用者や参加者を対象にヒアリングを実施し、プレーパーク整備に反映
- 子どもの意見を引き出すため、ヒアリングには児童館の勤務経験のある職員が対応し、プレーパークを知らない子でもイメージできるように、遊びのカードを用いて聞き取り
- 子どもの意見を踏まえて、フリースペースを広く確保し、自由に過ごせるように設計するなど、様々な意見を極力反映できるように工夫



学び	豊かな自然を生かした自然体験学習ができる機能を有するリーダーハウスを整備
居場所	プレーワーカーの常駐により安心して過ごせる居場所づくりや、地域と協力し顔の見える多世代交流を実現
相談場所	子育て支援者やプレーワーカーによる相談対応や、支援につながるサポート体制の構築
インクルーシブ	発達に特性のある子など配慮が必要な家庭の受け入れや近隣施設との連携を実施

遊びを核としたインクルーシブなコミュニティ形成の場づくり

日野市

ボール遊び場 プレーパーク

学び 居場所

インクルーシブ



事業のポイント

- 子どもを中心とした自由度の高い遊び場づくり
- 公園を3つのエリアに分け、オープンエリアには大きな原っぱとインクルーシブ遊具等を設置し、スポーツエリアにはボール遊び・球技が出来るスペースを確保、自然・文化体験エリアでは隣接の神社や自然との調和をとりプレーパークの機能促進
- 新旧住民が混在する地域の中で、この遊び場づくりをきっかけに、子どもの思いの実現を大人がサポートしていく関係を育み、年代差をこえる、誰もが使いやすい、遊びを核としたインクルーシブなコミュニティの場づくりに取り組む

子供の意見聴取・整備内容等への反映

- 近隣の小学校・特別支援学校やプレーパークを利用している子どもを対象に、全4回のワークショップやアンケートを実施し、遊び場のゾーニングややりたい遊び・スポーツなどについて意見交換し、「こども提言」を取りまとめ、公園設計に反映するなど、子ども参加型の公園設計に市として初めてチャレンジする
- 整備終盤では、子どもたちが花壇を作るなど子ども参加型公園づくりに取り組む
- 子どもの意見をふまえ、やりたいをかなえる遊び場の機能を更に充実強化していく



学び 昔遊びや焚火体験といったプレーパークとしての活用を推進し、自然や文化を学ぶ場とする

居場所 子どもたちが遊び場づくりに深く関わることで関心が高まり、自分の居場所として感じられる空間となる

インクルーシブ インクルーシブ遊具等の設置により、誰もが使える遊び場となり、子ども参加型の遊び場づくりの中で、コミュニティが生まれ、誰をも包み込むインクルーシブな空間となる

子供の「遊び・居場所・インクルーシブ」を重点とする地域交流の拠点となる公園等再整備プロジェクト



事業のポイント

- 墨田区内の3つの公園で、ボール遊び場、スケートボードパーク、インクルーシブ遊具などを整備
- 仮設のボール遊び場を恒久施設化することで、ドッジボール、サッカーのパスやシュート練習、バスケットボールのドリブルができるようになるなど、利用の幅が広がる
- 仮設のスケートボードパークを恒久施設化することで、利用時間が長くなり、初級・中級向けのセクションの増加が実現

子供の意見聴取・整備内容等への反映

- 設計時に小学校や児童館、幼稚園・保育園、近隣町会、老人福祉施設等にアンケート調査を実施し、ニーズを反映
- ボール遊び場については、どんな球技がしたいかなど、子供から直接ヒアリングを実施し、地域要望に沿って運用
- 仮設のスケートボードパークの利用者やボランティア団体の意見を設計に反映



居場所

子供からの需要が高いボール遊びとスケートボードが出来る場所を整備することで、家庭や学校以外の第3の居場所として公園の活用が期待できる

インクルーシブ

インクルーシブ遊具の導入により、誰もが一緒に遊べる空間をつくる

学び

居場所

インクルーシブ



事業のポイント

- 遊び・学び・ふれあい等の機能を備えた充実した子どものサードプレイスとなる公園を整備
- 緑が水を蓄える力を活用したグリーンインフラを整備し、トンボ等の生き物を呼ぶことで、子どもたちが生きものに触れる学びの機会を創出
- 子どもの声を反映した安全な遊び場を整備し、障害の有無にかかわらずあらゆる子どもたちが遊べるインクルーシブな公園へ

子供の意見聴取・整備内容等への反映

- 近隣の小学校や保育園・幼稚園でアンケート調査を実施し、広場の確保やみんなで滑る遊具を整備するなど、設計に反映
- 公園であおぞら意見交換会を開催し、親子連れに直接ヒアリング
- 小学校で出前授業を実施し、子どもたちが描いた絵やグループワークで出た意見を踏まえて、整備内容を検討



学び

グリーンインフラの整備により、生きもののすみかが生まれ、子どもたちが生きものに興味を持つきっかけ作りができる

居場所

出会いの場や生きものとのふれあいの場を創出することで、公園が居場所・学びの場となる

インクルーシブ

インクルーシブな遊具や施設の整備により、知らない子どもたちが出会い共に遊び楽しむ場を提供

市立公園を活用した共生社会実現のための子どもの遊び場づくり事業

小金井市

学び

居場所

インクルーシブ



事業のポイント

- あらゆる子ども（障がいのある子・ない子、外国にルーツを持つ子）や保護者同士が気軽に参加できる遊びや体験ができるように、インクルーシブデザインに配慮した遊び場等を整備することにより、共生社会を実現
- 子どもの意見を踏まえ、インクルーシブ遊具、車椅子に乗ったままでも作業ができる菜園、子どもたちの居場所・親同士の交流の場を整備

子供の意見聴取・整備内容等への反映

- 3歳から高校生までの親子を対象とした市内4か所の公園でのアートの要素を取り入れたワークショップ（理想とする公園の絵をタイル等に焼き付けトイレ内外の壁をデザインする）や、あらゆる子どもを対象としたグラフィックファシリテーションを活用したワークショップなど、市内の大学と連携して3か年かけて子どもワークショップを開催し、公園のイメージづくりや整備内容・整備後の活用等について具体的な検討を行う
- WEBアンケートや市内の支援施設等への聞き取り調査なども実施し、広く子どもの意見を聴取



学び 身近な公園で農体験ができることで、野菜などの植物の成長過程を学び、「農」に親しむ機会を創出

居場所 地域の関係者と協力して農体験やイベントを開催することにより子どもや親同士、地域との交流機会を創出

インクルーシブ インクルーシブ遊具や車いすに乗ったままでも作業ができる菜園を整備することで、あらゆる子どもが一緒に遊び交流する機会を創出し、相互理解の促進を図る

多世代にわたる子どもたちの遊び場充実のための新たな子育て・ 子育て支援拠点の整備

学び

居場所

インクルーシブ

事業のポイント

- 「子どもステーションくにたち」をコンセプトに、子育ての手助けをしてもらえ、子どもたちが学べる、集える、安心できる場所を整備
- 未就学児・保護者のための「子育てひろば」や、青少年を対象とした「学習・交流・たまり場」をコンセプトとした空間など屋内施設の整備により、遊び場不足を解消
- 駅前という立地条件を生かして、子育て・子育てに関する情報発信を強化

子供の意見聴取・整備内容等への反映

- 未就学児の保護者向け・中高生向けのワークショップの開催、小学校や高校で授業形式での意見聴取、中高生向けのWebアンケートなど、多様な手法により異なる年代の子どもたちの声を集め、設計に反映
- ワークショップや授業形式での意見聴取では、設計者の建築士が建築模型や3DCG（コンピュータグラフィクス）を使いながら説明し、具体的に施設をイメージできるように工夫



学び	「学習・交流・たまり場」をコンセプトとした空間にカウンターデスクを設置し、主に青少年が自習等を行えるワークスペースとして活用できるとともに、ミニキッチンを併設したイートインスペースを設置し、たまり場としても活用
居場所	
インクルーシブ	しょうがいしゃ団体への聞き取りも踏まえ、車いすでの利用が可能なように各種空間に配慮し、しょうがいの有無にかかわらず子どもたちが遊べる環境を整備することで、インクルーシブ社会の実現につながる